

次期出雲市総合振興計画の策定に向けた取組状況

1 いずも未来ミーティングの動画配信（市長と島根大学学生との懇談会）・・・P 3

【内容】

島根大学の毎熊教授のコーディネートにより、市長が島根大学学生の意見を直接聞く、「いずも未来ミーティング」を開催。

懇談会の様子は市の公式 Youtube にアップし、専用フォームから広く意見を募る。

【概要】

収録日 11月15日（月）

参加者 飯塚市長、毎熊島根大学教授、島根大学学生（12名）

会場 出雲文化伝承館

公開日 12月10日（金）

2 若手ワーキンググループ（若手WG）会議

・・・P 4

【内容】

各部局から選出した、若手職員 20 名によるワーキンググループを設置。関係団体へのヒアリング等を踏まえて、めざす将来像や施策の柱などを検討する。

【概要】

第1回会議 10月13日（水） 概要説明、グループワーク

第2回会議 11月4日（木） めざす将来像の検討

第3回会議 11月16日（火） 施策の「柱」の検討

3 若手WGによる市長ヒアリング

・・・P 17

【内容】

若手WGメンバーによる市長のまちづくりへの思いや考え方についてヒアリング。

【概要】

開催日 10月22日（金） 10:00～11:00

4 若手 WG による関係団体ヒアリング

…P18

【内容】

様々な団体等の意見を取り入れるため、若手 WG メンバーが市内商工団体、大学等を訪問し、市の課題や今後取り組むべきことなどについて意見聴取した。

【概要】

実施日 11月1日（月）～11月11日（木）

訪問先 島根大学医学部、島根県立大学、平田商工会議所、出雲商工会、斐川町商工会、山陰合同銀行出雲支店、NPO 法人スサノオの風

5 若手 WG による島根大学学生ヒアリング等

…P21

【内容】

若手 WG メンバーが、島根大学学生に「出雲の魅力」、「望むこと」などをヒアリングし、今後のまちづくりのキーワードを探った。

【概要】

実施日 11月2日（火）14:30～15:30

参加者 島根大学学生 12名（うち、オンライン9名）
若手 WG メンバー 2名

6 職員からの提案募集

【内容】

総合振興計画の策定に関する4つのテーマについて、職員からの提案を募集した。

【募集テーマと提案数】

提案件数 35件

①次期総合振興計画の「名称」	14件
②まちづくりの将来像	5件
③次期総合振興計画の「柱」	2件
④盛り込むべき視点、施策、事業等	14件

1 いずも未来ミーティングの動画配信（市長と島根大学学生との懇談会）

(1) 開催の目的

- ・市長が、策定にあたり若い世代の意見を聴く機会を設ける。
- ・動画配信を通じて、幅広く意見を聴取する機会を作る。

(2) 動画の内容

- ・収録日 令和3年11月15日(月)
- ・場 所 出雲文化伝承館
- ・参加者 市長、島根大学学生12名（うち6名はWEB参加）
毎熊島根大学教授（コーディネーター）
- ・内 容 「1番大切にしていること・もの」「住みたくなるまちの条件は？」などの設問に対し、市長と大学生が答える形式での懇談会の様子を配信。動画の最後には、市民に向けた市長からのメッセージも収録。
- ・動 画 5分程度の動画3本を配信し、誰でも投稿できるよう、専用フォームを設ける。

(3) 動画公開日 令和3年12月10日（金）

《動画QRコード》



《Youtube 動画のサムネイル画像》



《撮影の様子》



2 若手ワーキンググループ（若手 WG）会議

(1)開催の目的

- ・次期総合振興計画に若者による自由な発想を取り入れる。
- ・若手職員が、計画策定に積極的に関わることで、将来の市政に責任を負う意識を高める。

(2)参加メンバー

40歳未満の職員を対象とし、各部局から選出（計20名）

(3)若手 WG の役割

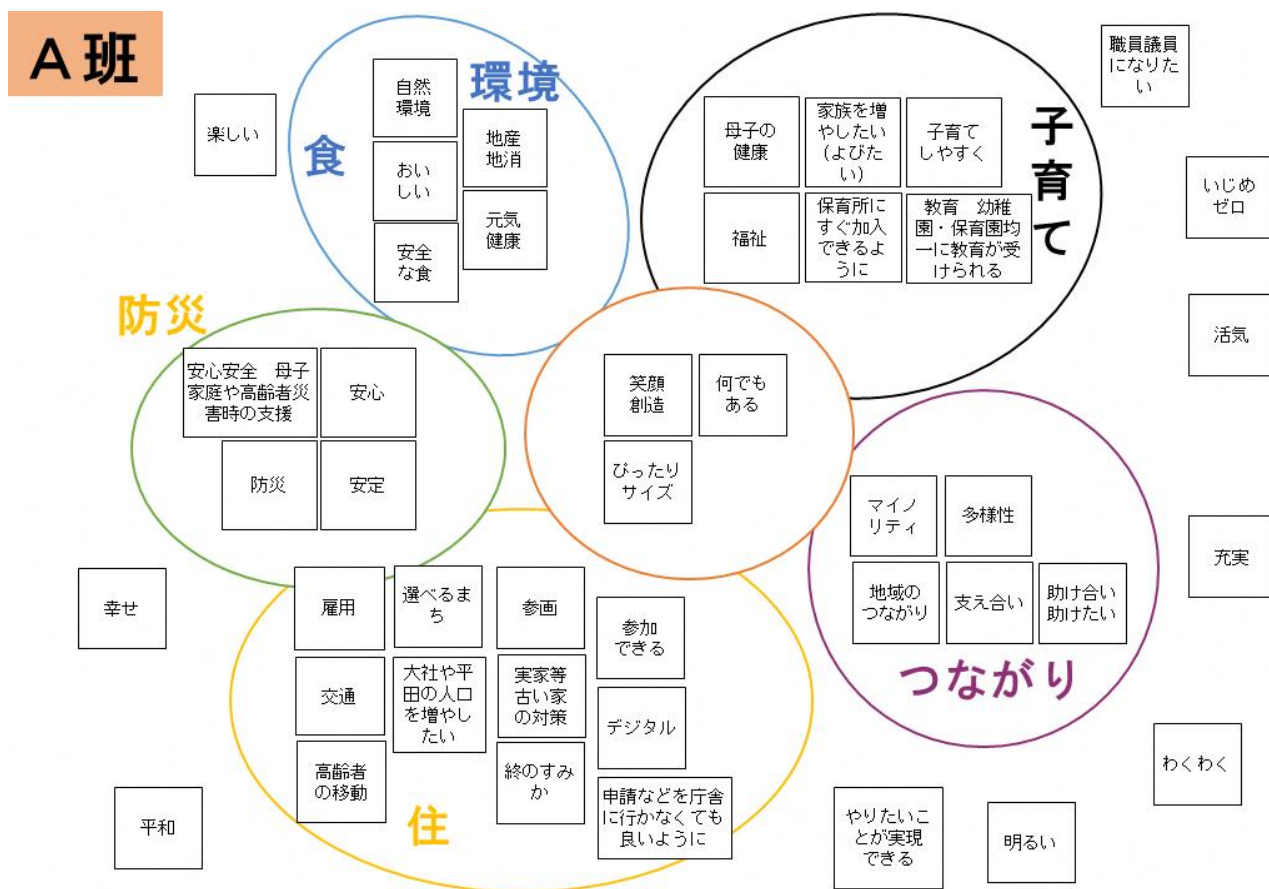
- ・出雲市の目指す将来像（方向、基本目標）検討
- ・大きな柱（カテゴリー）検討
- ・市長や関係団体等へのヒアリング（計画への思い、方向性など）
- ・総合計画審議会の傍聴
- ・総合振興計画策定の各段階における意見交換、提案 ほか

(4)会議内容

	開催日	内 容
第1回	10月13日（水）	・市長激励 ・概要説明（若手 WG の役割、スケジュール等） ・グループワーク（まちづくりのキーワードアイデア出し）
第2回	11月4日（木）	・グループワーク（まちづくりの将来像検討）
第3回	11月16日（火）	・グループワーク（施策の柱の検討）



第1回 ワーキング会議でのグループ発表内容

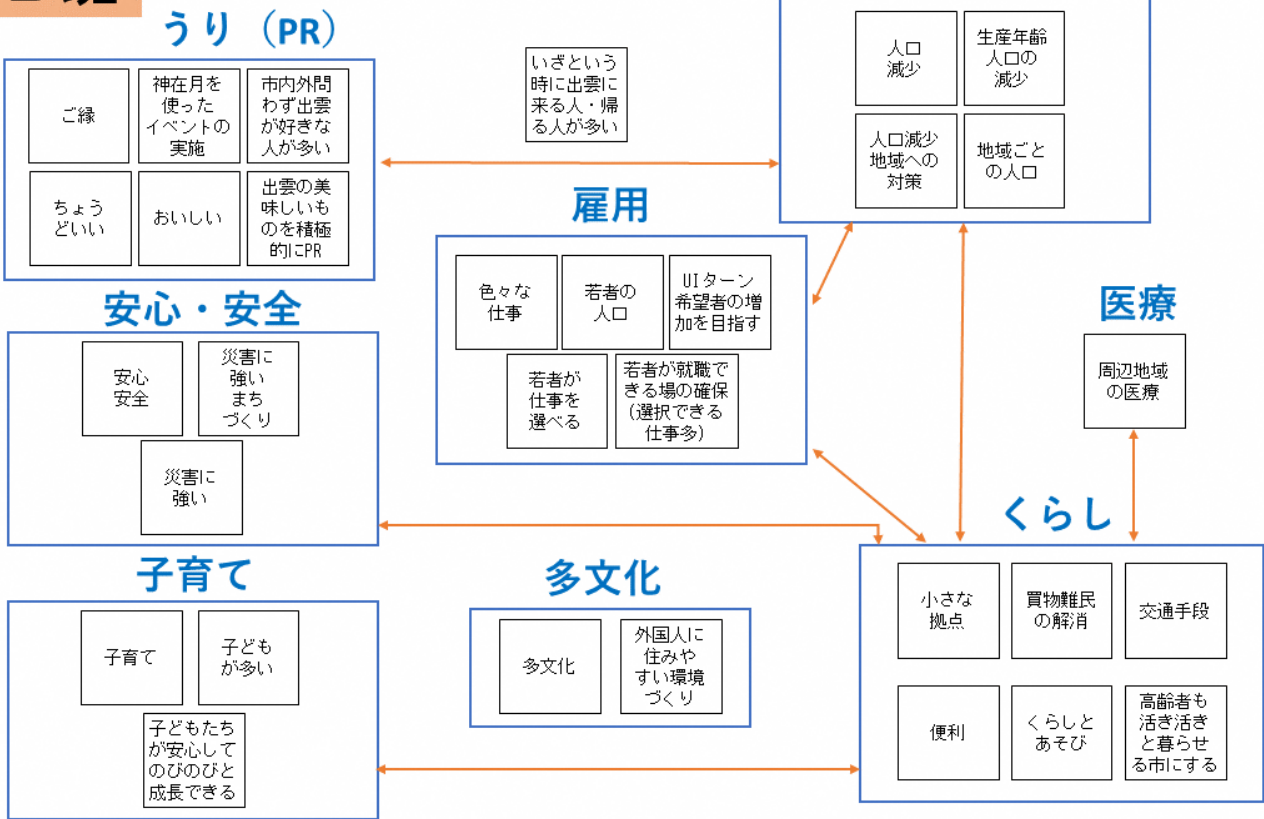


笑顔・創造・ぴったりサイズ、なんでもある出雲をキーワードに意見を出した。出雲市には山・海があり、宍道という名前だが湖もある。大きな商業施設や出雲大社という有名な観光もある。大都会ではないが、そこまで田舎でもない出雲をもっと住みやすくするために、こんなものがあつたらいいのではないかと考えた。

- 食・環境：地産地消の美味しいものがいっぱいある。そういったものをPRする。
- 子育て：子ども達がより良い環境ですくすくと生活できる。
- マイノリティ（つながり）：地域のコミュニティをどんどん良くしていったら良いのでは。
- 住環境：個人的な意見だが、大社地区出身であるため、大社地区の人口をもっと増やしたい。
- 防災：安全安心

出雲市が良くなれば、市民の皆さんが楽しく、活気が溢れ、わくわくするような生活ができるのではないかと考え、笑顔・創造・ぴったりサイズというキーワードで意見を出し、整理した。

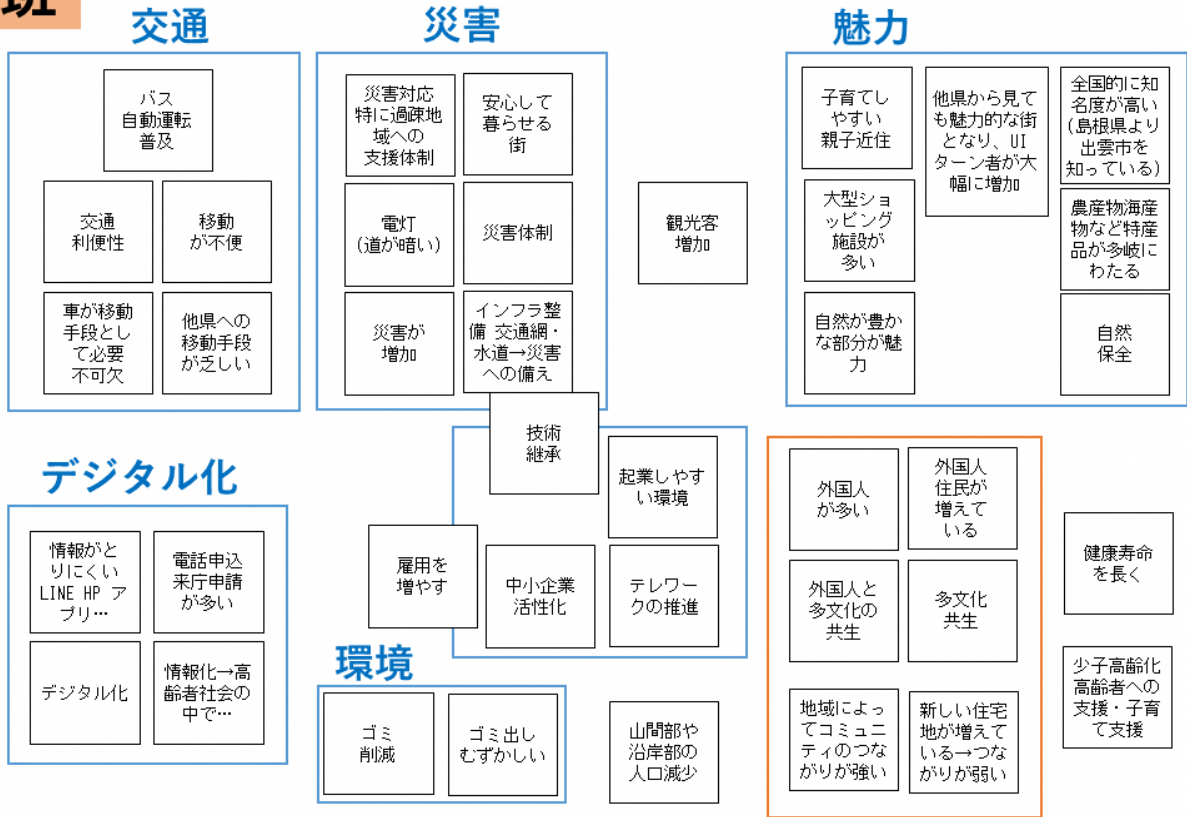
B班



まちづくりの将来像や現状の課題を挙げ、同じものをまとめた。一番中心になるのが暮らしと遊び。例えば、中心部は暮らす場で周辺部は遊びの場に、また、交通手段をより良くしていくことを中心に進め、さらに様々な方向につなげていく。

- 子 育 て：子どもたちが安心してのびのび成長できるようまとめている。
 - 多 文 化：外国人の方も住みやすい環境作りをしていく。
 - 安心安全：今、問題になっている災害について、安全安心で災害に強いまちづくりを進める。
 - 医 療：山間部の医療の問題があり、政策を進めていければと思う。
 - 雇 用：人口減少カテゴリとして挙げており、人口減少は若者の就職先が無いことへ繋がっている。若者が雇用を選べるまちづくりや、U I ターンを増やすまちづくりを進めていく。
 - P R できること（出雲といえばこれと言えること）
 - ・ご縁を活用した P R・まちづくりを更に P R。
 - ・出雲は発展しすぎず、不便というわけではなく、ちょうど良い。これを売りにする。また、市内外問わず出雲市が好きな人へ更に P R したり、出雲の美味しいもの、出雲ブランドなどを更に P R する。
- いざという時に、出雲に帰ってきてくれる人を増やすということも大事だと思う。

C班



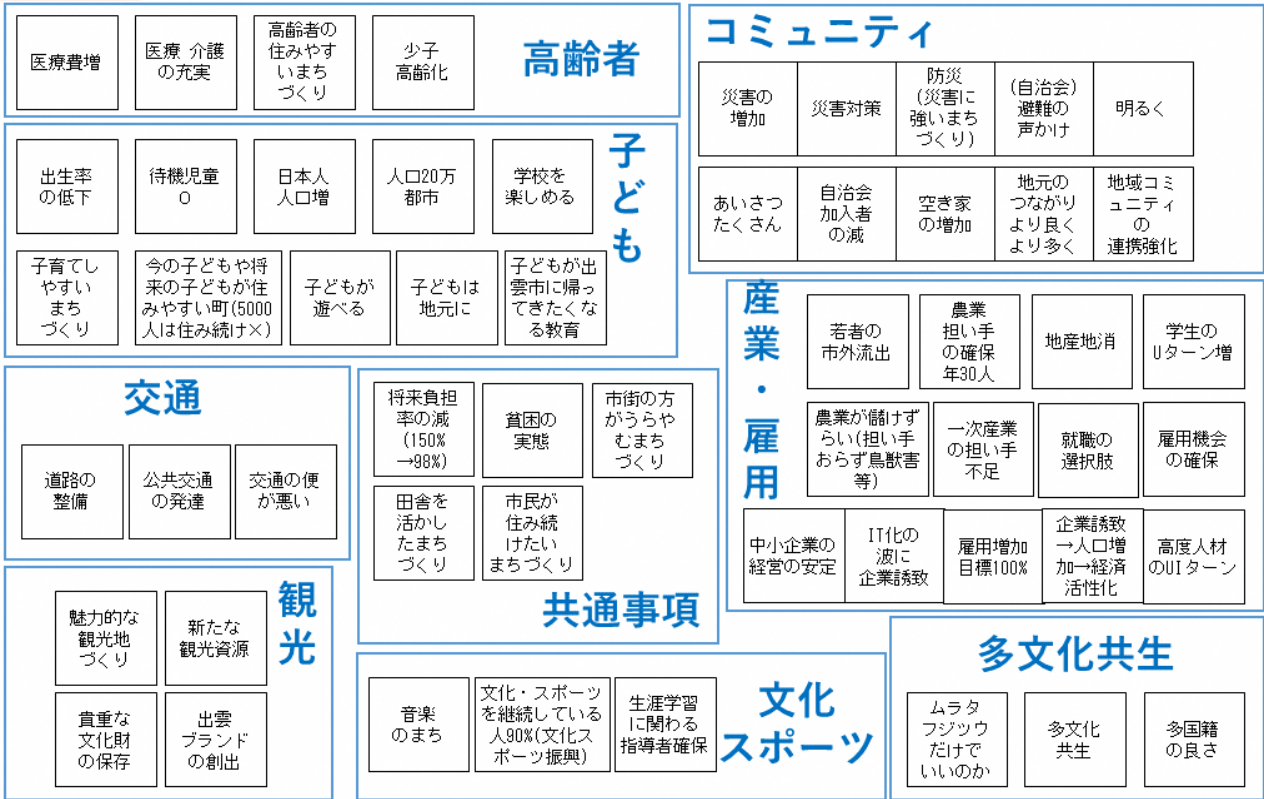
<課題>

- 交通：移動手段として車が必要となる。車の代替としてバスや自動運転の技術があり、課題解決につなげることが必要。
- 災害：近年、災害が増加しており、災害体制や安心して暮らせる街づくりが必要。
- デジタル化：窓口に来なくてもLINEやHPなどで情報共有できるデジタル化の仕組みが必要。

<魅力> ※引き続き維持していきたい、向上していきたいこと

- 全国的な知名度が高い、島根県よりも出雲を知っている人が多い。
- 海産物、農産物など特産品が多岐に渡り、引き続き維持向上していくべき。
- 外国人が多いことが魅力の一つ。(オレンジ色枠も魅力カテゴリ)、外国人が多いことを活かしたまちづくりが必要。(※災害時、外国人の方が避難所で困らないような声掛け、すぐにわかる避難・声掛けができる仕組み等)外国人の方を起点にして物事を考えていくと、考え方がシンプルになり、高齢者や子育て世代の方にも生きて来るのではないかと。災害、デジタル化、ゴミ出しなど、外国人の方がすぐにわかるような仕組みができれば良いのでは。多文化を起点にしたまちづくりを目指していくことが必要なのではないかと。

D班

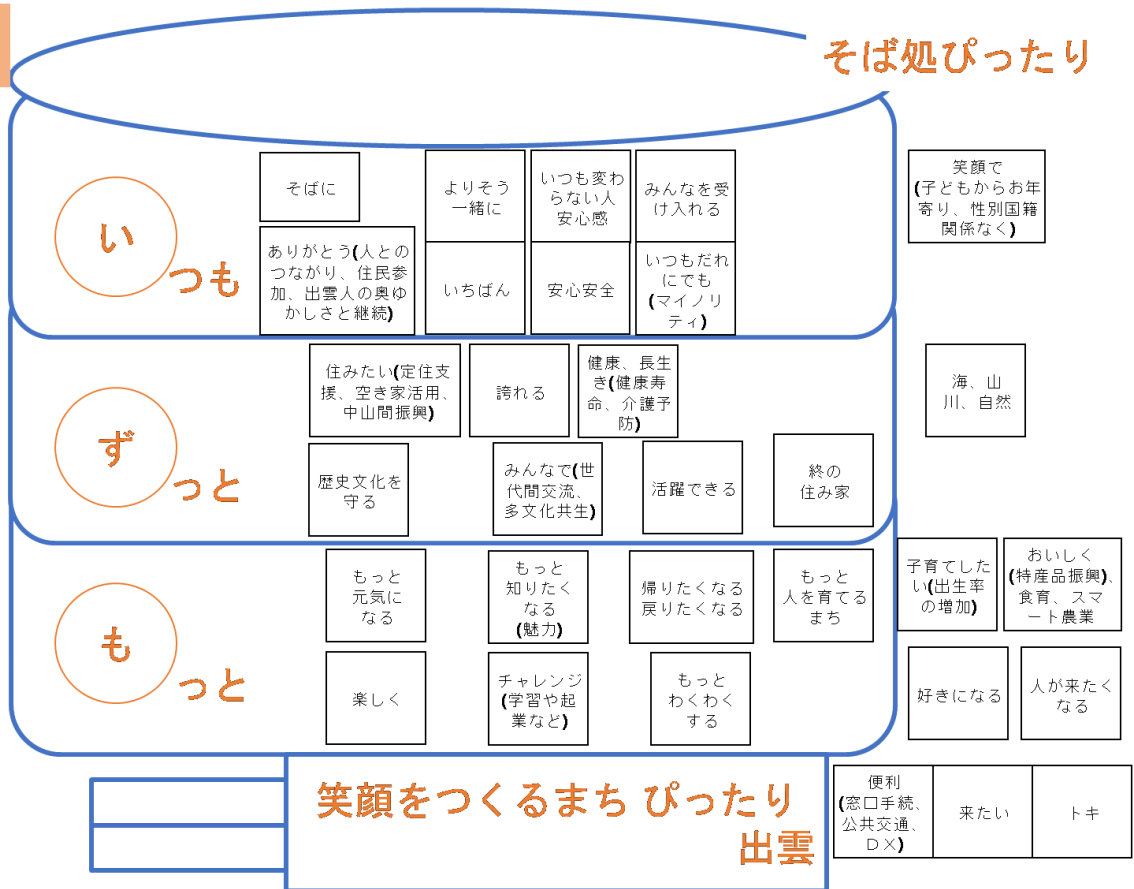


高齢者・コミュニティ・子ども・産業・雇用・交通・観光・文化スポーツ・多文化共生といった項目建てをした。

- 高齢者：少子高齢化が進む中で、医療費が高くなると自治体の負担も高くなる。
- コミュニティ：自治会への加入者が非常に少なくなっているという状況において、災害時の声掛けができず、本来助かる方が助からなかったといったことがないよう、コミュニティを通じた防災を考える。
- 子ども：子どもたちを中心に考え、子どもたちが元気に明るく過ごせる、教育が受けられることが大事。
- 雇用：企業の誘致ということと人口増、経済の活性化というところにつながっていくのではないかと考える。
- 交通：出雲市は、車がないと移動が大変であるため、そういったところで強化が必要。
- 多文化共生：大企業がある中で、外国人の方と交流できる近さや、同じ市民としての繋がりがあがると思う。そういったところを通じ、様々な文化に触れつつ成長していくことが必要。
- 観光：出雲大社など様々な観光資源があるが、さらに観光を強化していく必要があると考える。
- 文化スポーツ：「音楽の町出雲」という意見もあるが、スポーツも盛んな出雲というのも良い。住みやすい街というのが意見の中心にある。それに向かって目標や課題が出ている。

第2回 ワーキング会議でのグループ発表内容（まちづくりの将来像）

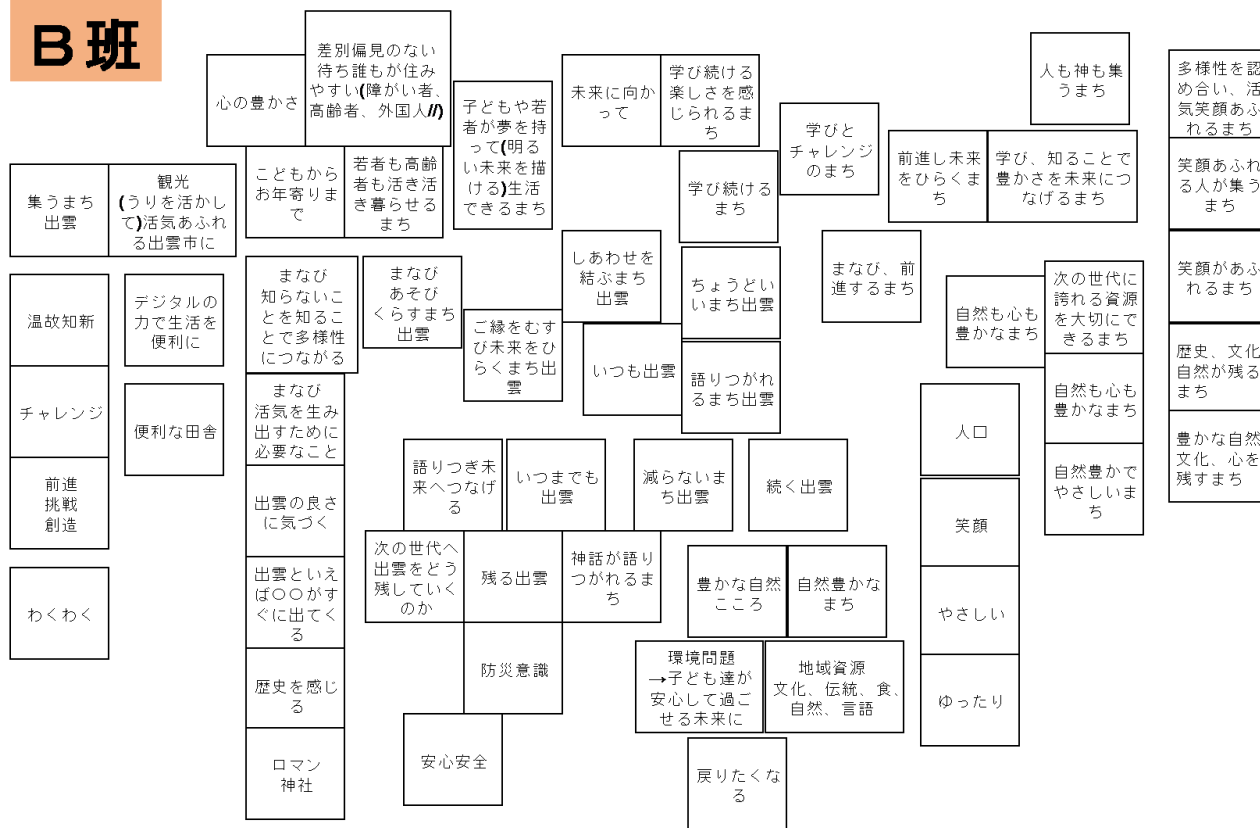
A 班



「もっと」が“今後発展する余地のある部分”。例えば、産業・農業をもっと伸ばすことで、「ずっと」住み続けたいと思えるようなまち”を作っていくと、「いつも」笑顔になっていく”。皆が安心して、安心安全なまちを作っていく将来像とした。



B班



「人も神も集う 活気あふれるまち 出雲」

- 未来に向かって学び続けるまち
- 多様性を認め合い、活気・笑顔あふれるまち
- 次の世代に誇れる資源を大切にできるまち

B班

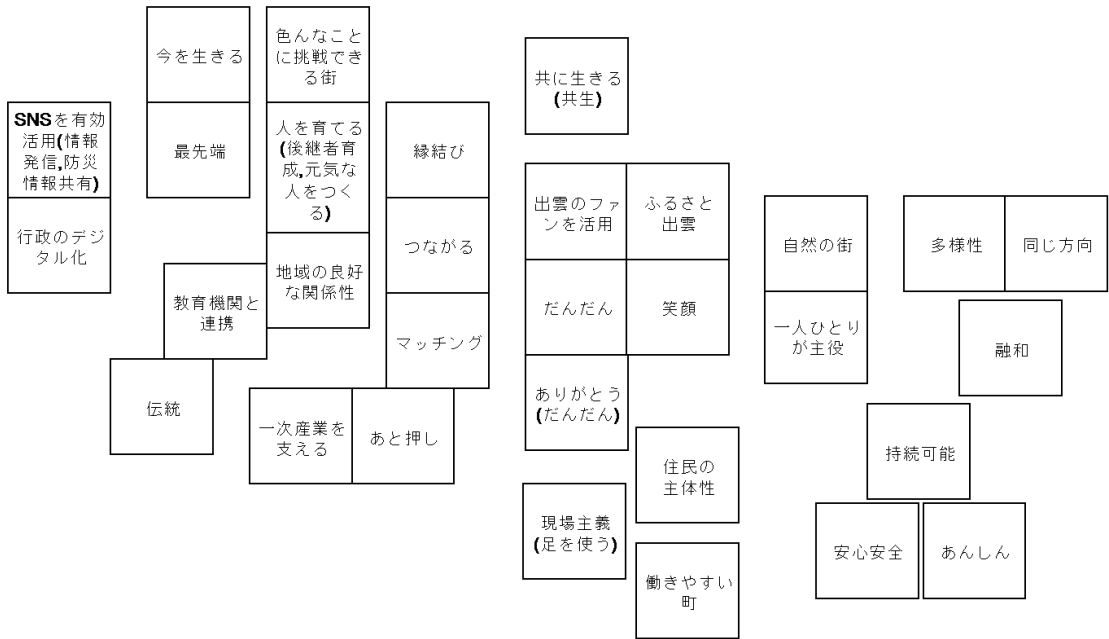
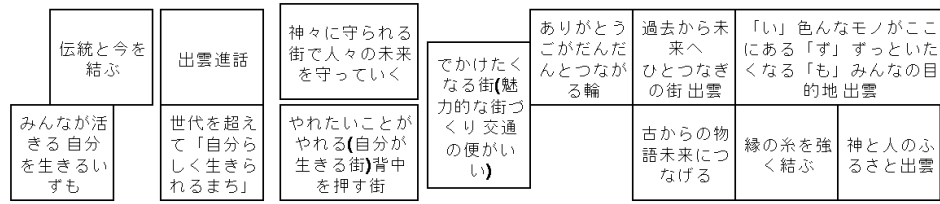
「学び」⇒すごく大事なので取り入れている

「多様性を認め合い、活気・笑顔あふれるまち」⇒外国人の住民が増えている中、認め合うという意味

「次の世代に誇れる資源を大切にできるまち」⇒今あるものを守りつつという意味

C 班

キャッチコピー案



出雲「進」話

ありがとうがだんだんとつながる縁

- 一人一人が自分らしく、共に生きるまち
- 伝統と今を結ぶまち

C 班

- 出雲神話の「神」は「進」。総合計画は、将来に向かった話なので「進」を使っている。
- 「ありがとうがだんだん」という、出雲弁のありがとうと「だんだん」をかけた。ありがとう、そして人が繋がっていく、そんな出雲市になればいいなという想いを込めている。
- キャッチコピーを作るにあたって2つ柱を立てた。
「一人ひとりが自分らしく共に生きるまち」「伝統といまを結ぶまち」。

D班

定住

住みやすい	郷土愛	なんでもそろう	なんともある	定住
便利	ちょうどいい	生涯働ける環境	誰でも住みやすい	

トキ

自然あふれる	環境にやさしい
トキを放鳥	トキ

神歴史

歴史あり	神話, 自然, 人	えにし
みんなが出雲の縁人(神)	古事記	神在月

ブランド

おいしい	ブランド
魅力度 No.1	農業が継続できる

笑顔

個性の発揮	幅広い選択肢	つながり	希望	ありがとう Thank you だんだん
多様性	ほどよい	幸せ	笑顔立国	人を想う
出雲ファースト	1人1人の想い	市民本位	日本一だいたいすぎなまち	

縁結び	縁結び	縁結び
-----	-----	-----

子育て・福祉

子育て支援	子育てしやすい	誰ひとり取り残さない	福祉の充実
高齢者支援	だれも取り残さない	全世代支援型	健康

エンジン 縁神人

近未来

新エネルギー	近未来	自然エネルギー
産業活性化 多様化	技術立国	産業革命

交通

安全	公共交通
----	------

カネ

新資本主義	成長と分配	持続可能な財政
-------	-------	---------

過去から未来へ！
 みんなが出雲の縁^{エンジン}神人
 ・歴史をつむぎ、神様が集うまち
 ・神様だけじゃない！誰もが住みたいと思うまち
 ・人だけじゃない！トキも住みたくなるまち

D班

「縁」は縁結びの縁、「人」は神と人かけた。動力としてエンジンという意味も込めている。
 「歴史を紡ぎ、神様が集うまち出雲」、「神様だけじゃない、誰もが住みたいと思う出雲」「人だけじゃない、トキも住みたくなるまち出雲」人、神、トキ。トキは人と共存する街のシンボル。

第3回 ワーキング会議でのグループ発表内容（施策の柱：カテゴリー）

A班

笑顔

共

強制しない

安心感

住みやすい生活

多様性

出雲教育
出雲をもっと知って伝えていける人づくり

質の高い教育(自由な教育)

歴史・文化を大切に(教育に注力)

出入り

に生きるまち

コミュニ
ティ

年齢
年代

強制しない
共生(今日せい
でない)

地域の輪

空き家・
空き店舗
の活用

物語

楽

便利で

デジタルファースト
子どもからお年寄りまで

情報アクセス

デジタル化

広報力アップ
発信する力

みんながガイドできる
観光都市

交通

世代ごとの交通手段

移動の手段を多様化
チャリ, タクシー, 自動運転

コンパクトシティ

な楽しいまち

安

医療と地域を調和した

(安)心・安全・命を守るまち

災害につよいまち
復旧のスピード化
避難場所が安心安全

災害に強いまち(災害弱者に強い)

健診・予防接種の充実
/子どもからお年寄りまで

豊かな自然(食の安全)地元の食物)

エネルギー

環境

観光・自然ブランド力アップ

人づくり

スポーツで活性化

スポーツ振興
知ってもらおう・見てもらおう・やってもらおう

先進医療と地域医療

子~高齢者健康で暮らせる

自然の豊かさを守る

自然

トキの放鳥

新エネルギープロジェクト/新エネセンを活用した事業

仕事づくり

「共」サブワード：「強制しない共に生きるまち」

この中には多様性を認め、あらゆる人が認められる暮らしやすい出雲を作っていきたいことや、歴史や文化を大切にして、色んな世代の方が楽しく生れる出雲にしたいということでこのワードを入れた。

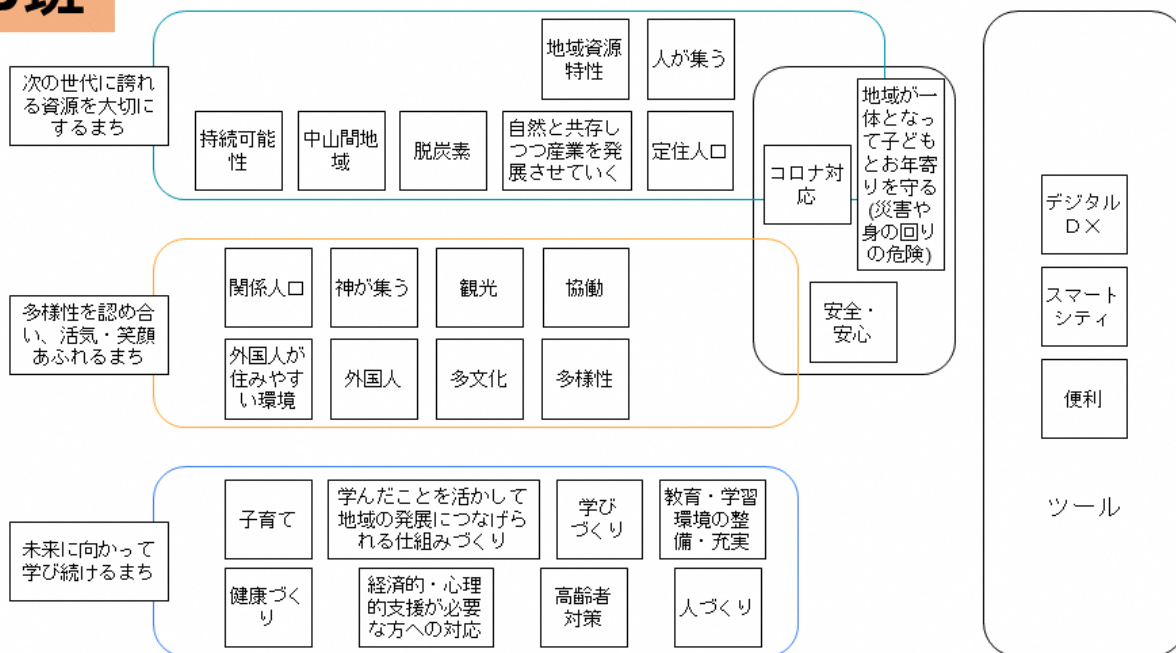
「楽」サブワード：「便利で楽しいまち」

この中にはデジタル化や、交通の整備を図ることによって、皆が便利で暮らしやすい町にしていきたいと思いい、この言葉を使った。

「安」サブワード：「医療と地域を調和した安心・安全・命を守るまち」

災害に強く、出雲の自然を守っていく街づくりをしたいと思いでこのワードを入れた。

B班



「次世代に誇れる資源を大切にできるまち」

持続可能性や脱炭素、人が集うというような単語を並べた。

「多様性を認め合い、活気・笑顔あふれるまち」

外国人の方が住みやすい、多文化共生を大事にしていく、協働していくことをあげた。「次世代に誇れる資源を大切にできるまち」と「多様性を認め合い、活気・笑顔あふれるまち」を繋げる、両方にかかることとして「コロナ対応」や「安心安全なまち」、「地域が一体となって子どもやお年寄りを守るまち」で繋げている。

「未来に向かって学び続けるまち」

子育てや学びづくり、教育・学習環境の整備や充実、健康づくりや、高齢者介護の充実といったキーワードを挙げた。

それらすべてを実現するツールとして**デジタル・DX**や**スマートシティ**、**便利**を挙げている。

C班

攻めの「銅剣」

産業・経済の発展を目指す

企業誘致 (サテライトオフィス等)	一次産業の なり手不足	外国人労働者の受け入れ	UIターン者を増やす	伝統文化を守る	関係人口の増加	空き家対策(活用)
企業をよびこむ	一次産業の後継者を育てる	企業併設型の託児施設等の充実	移住定住促進	出雲大社を起点にした観光	観光客の受け入れ	空き家
就業支援	一次産業と二次産業をうまくマッチングさせる	小売店、飲食店、サービスの支援	雇用確保	穴場スポットを観光地化する		空き家の活用
新規事業の立ち上げ	農業の振興	事業継承	県外に進学した学生が戻ってこれる環境	事業の後継者不足	スポーツ、TV等のイベントや大会の積極的誘致	海山川の自然を守る
企業誘致	新たな特産品を生み出す	中小企業の活性化	交通網の整備、新設	中心部とそれ以外の場所を交通で結ぶ	情報発信の	観光資源の維持・創造
学生のUIターン			交通の便	インフラ維持	情報発信	DX
			交通機関の整備	公共交通機関の充実	出雲神話の魅力を国内外にPRする	手続きを電子申請できるようにする
						行政手続きのデジタル化を推進する
						IT化、デジタル化

守りの「築地松」

市民の安心できる暮らしを守る

災害対応事後対応	高齢者の生活	子育て支援
既存インフラの維持、確保	高齢者の生活支援	子育て(教育)支援
災害対応	高齢化	一人一人にあった教育支援をする
災害に強い町にする	マイノリティの方が集える場を設ける	外国人住民も暮らしやすいまち
災害対応	防犯設備の整ったまちづくりを行う	多言語選択の不足
避難所運営		外国人住民の生活を支援する
		多文化共生

繋ぎの「高瀬川」

『攻めの「銅剣」』

経済・産業の発展を目指すということで、企業誘致や、UI ターン者を増やす、伝統・文化を守る、こういった活動で経済・産業を発展し、出雲を攻めていく『攻めの「銅剣」』で頑張っていく。

『守りの「築地松」』

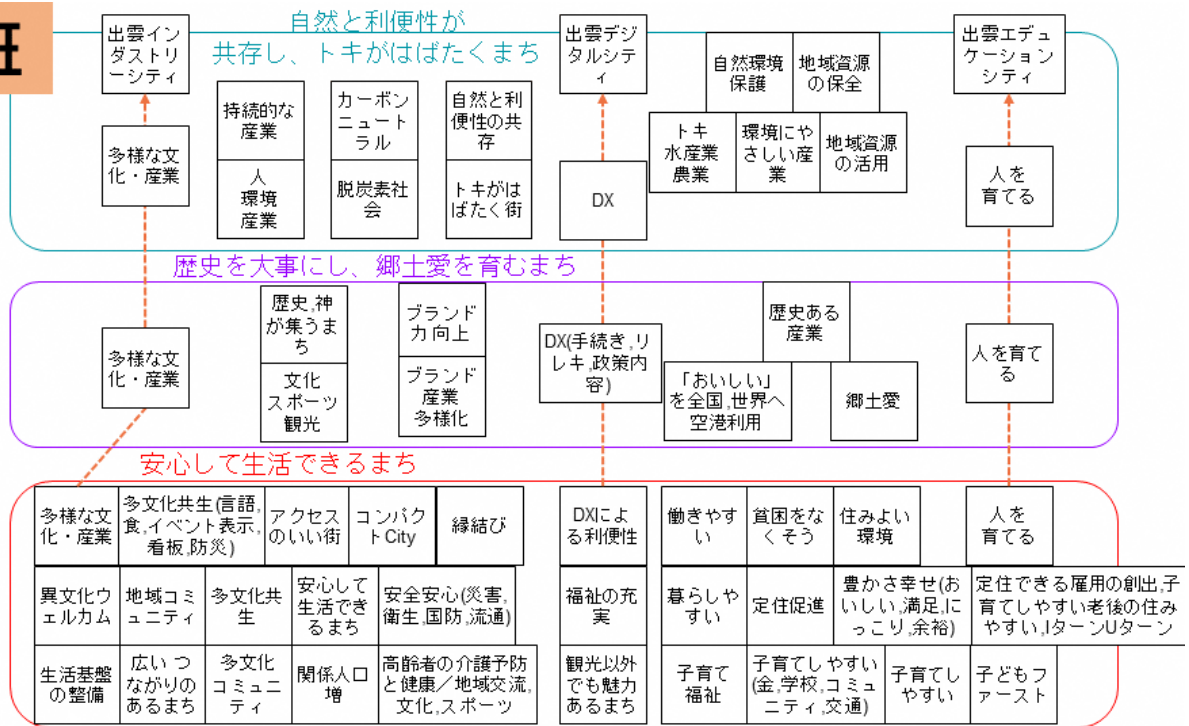
市民の安心できる暮らしを守るということで、子育て支援や、高齢者の生活を守る、あとは災害対応、災害に強い町にするということが必要。

『繋ぎの「高瀬川」』

『攻めの「銅剣」』、『守りの「築地松」』を進めつつ、その間をつなぐ出雲で言う高瀬川のようなもの。

例えば交通の便が悪く、高齢者になるとなかなか外出しづらくなることを、交通網の整備で出雲市をつないでいく。さらに3つに共通するのが「DX」。行政の手続きをデジタル化し、それを市内外へ発信することが大事。

D班



①「歴史を紡ぎ、神様が集うまち出雲」⇒「**歴史を大事にし、郷土愛をはぐくむまち**」

ブランド力、人を育てていく、そして歴史ある産業がある

②「神様だけじゃない、誰もが住みたいと思う出雲」⇒「**安心して生活できるまち**」

多文化共生や、安心安全、子育てしやすい、定住促進

③「人だけじゃない、トキも住みたくなるまち出雲」⇒「**自然と利便性が共存し、トキがはばたくまち**」

カーボンニュートラルや自然環境保護、持続的な産業、多様な文化・産業

※①～③は将来像のサブタイトル

これら横軸を縦で見たときに共通したものを縦の柱にした。

「**出雲インダストリーシティ**」多様な文化・産業ということで、自然にも配慮した文化・産業もあるし、歴史を大事にした産業、人を大事にした産業もできる。

「**出雲エデュケーションシティ**」人を育てていく、人が暮らしやすいように育てていくと、歴史についても人を育てていく、自然環境で人を育てていく。

それらの手段としてDXがあって、「**出雲デジタルシティ**」で柱を結んでいる。

3 若手 WG による市長ヒアリング

(1)開催の目的

市長は就任後間もないため、若手職員との意見交換の機会を設け、総合振興計画策定に向けて、市長の思いや考え方をより深く理解する。

(2)開催日時

10月22日（金）10:00～11:00

(3)ヒアリング内容

	質問内容	回答（要旨）
1	出雲市の「のびしろ」はどこにあるか。	伸びる要素はたくさんある。 時間の流れがゆるやか なところにも 豊かさ を感じる。
2	デジタル化、環境問題、SDG s 等、最近のトレンドの中で重要だと考えることはなにか。	デジタル化 と 脱炭素 に関心がある。 人を生かしていく ことも重要。
3	手本にしたい自治体はどこか。	SDGs を取り入れたまちづくりをしている自治体。他の手本になるまちにしたい。
4	どのような分野を伸ばしていきたいか。	雇用を創出 する力、 デジタル 、 脱炭素 の分野を伸ばしていきたい。福祉、子育て等住んでよかったと思える出雲にしたい。
5	SNS や Web 会議などの電子ツールで注目しているものはあるか。	情報発信は非常に重要。どれがいいかということよりも どうやって使うか が大切。
6	持続可能なまちづくりに向けた課題と対策は。	雇用の場 の確保。子育て等 総合的に考えていく 必要がある。どうすれば出雲が選ばれるかを考えることが大切。
7	子育て施策で必要なものはなにか。	公設だけでなく 民間でも 子どもを預かる場を作ってもらえるよう支援することも大切。
8	外国人住民について。	一緒になって 地域を作ってもらうために支援をしていくことが重要。
9	市役所手続等のデジタル化について。	デジタル技術を身近に 感じてもらい、住民のデジタルリテラシーを育てたい。
10	官民連携の取組について。	市から積極的に 交流の機会を作ってほしい。

4 若手 WG による関係団体ヒアリング

(1)開催の目的

- ・市の課題や現状、今後取り組むべきことについて、市内関係団体の意見を聞き、計画策定の基礎資料とする。

(2)実施日

11月1日（月）～11月11日（木）

(3)訪問先

島根大学（医学部）、島根県立大学（出雲キャンパス）、平田商工会議所、出雲商工会、斐川町商工会、山陰合同銀行出雲支店、NPO 法人スサノオの風

(4)意見概要

【出雲の魅力】

1	自然が多く、親切な人が多い。優しいまち。
2	都会から来た若者にとっては物足りない部分はあるが、静かな田舎を好む若者にとっては、 住みやすい環境
3	素敵な景色や文化等の良さ は若者にも伝わる。情報発信することが大切
4	外から見ると魅力的 なものがたくさんある。地域の人への情報発信も必要
5	出雲の歴史や 魅力を市民が理解 することが必要。

【多文化共生】

1	外国人住民を 受け入れる体制 が、地域で整っていない。
2	地域によっては、 外国人がいることが日常 になっている。日本人との間でトラブルになったという話はほとんど聞かない。
3	外国人を一住民として 受け入れる意識 の醸成が必要
4	外国人の 日常生活（各種手続、医療など）への支援 （特に言語）が必要
5	保育所、幼稚園、児童クラブ での通訳対応の強化が必要。
6	労働力としてではなく、 お互いが認め合 って、住んでいいねという感覚を作っていけると良い。

【産業】

1	経営者の高齢化による、 事業承継 の問題。M&A や第三者承継を進めるため、 関係団体の連携 が必要
2	二次産業、三次産業へつなげるためにも、 一次産業の活性化 が必要。
3	大社地域を訪れた 観光客を市内他地域に周遊 させたい。
4	アフターコロナ、ウィズコロナに対応した業態転換 をする事業者が増加している。

【進学・就職】

1	高校生の県内就職 を増加させるため、 市内高校と大学とのマッチング 支援が必要。県内出身者に県内で活躍してもらいたい。
2	出産、育児などを抱える子育て世代などが 働き続けられる環境 を整える必要がある。
3	製造業・建設業の人手不足 が課題。事務系、小売系などの人気が高い。
4	学生と地域とがつながり 、地域に学生を支援してもらえることで、学生が地域に残りたいと考えることに繋がっている。
5	大企業に就職希望者が集中している。 中小企業を知ってもらう取組 が必要。
6	佐田地域は 高校がないことを理由に地元を離れる 人が多い。

【情報発信・デジタル技術の活用】

1	人によって欲しい情報は違う。 伝えたい情報を伝えたい人に正しく伝える ということが、これからの情報発信に求められる。
2	全世代、 誰でも使える IT ツールがあると良い。
3	デジタル活用の二極化 が進んでいる。デジタルに関する知識がなく活用できない人が多い。

【まちづくり全般】

1	地域の取組を市がバックアップ、フォロー できる体制が必要。JC や商工団体などの団体が地域を盛り上げていくべき。
2	平田地域の東部都市拠点活性化協議会への支援
3	出雲縁結び空港が立地していることを生かしたまちづくり を考える必要がある。
4	地域の課題を、大学や学生とで解決 していけると良い。
5	各地域の特性 を生かしたまちづくりが必要
6	空き家の活用 については、所有者が拒否される場合が多い。ここが解決できると良い。
7	キーパーソンによる地道な取組や、小さな取組を大きな流れに繋げる ことが必要
8	災害が増えている。高齢化が進む中、 災害への危機管理 をしっかりとしておくことが住みやすい地域、やさしい社会につながる。
9	高齢者が「住み続けたい」と思える よう、地域医療、介護を充実させることで、それを支える若い人材が増えるという循環を作れると良い。
10	小型車両で効率よく運行する公共交通 の構築
11	デマンド体系やドア・トゥ・ドアなど、新たな公共交通の構築 が必要。
12	まちの中に 大きな公園 があると、若者から高齢者までの憩いの場となり、まち全体が楽しい雰囲気になる
13	エリアごとに特徴をいかしたまちづくり が必要。(市街地は「便利さ」、佐田は「遊び」など)
14	外からの視点 で見ると、それぞれの地域に、地域の人気づかない魅力がたくさんある。 外からの視点を大事 にしたい。
15	関係人口を重視 し、8年後、10年後に地域に住んでいる人、住んでいない人も含めて頻繁に人が出入りするまちがいい。 人のつながり を大事にしたい。
16	市職員が地域、現場を良く知り 、政策を作ってほしい。

5 若手 WG による島根大学学生ヒアリング等

(1)目的

- ・島根大学学生に「出雲の魅力」や「望むこと」などを意見聴取し、若者の視点及び市外、県外からの視点を取り入れる。

(2)実施日時

11月2日（火）14:30～15:30

(3)参加者

島根大学学生 12名（うち、オンライン9名）、若手 WG グループメンバー 2名

(4)意見概要

【出雲の魅力】

1	都会な部分 がありながら、 自然が残っている。
2	人とのつながり が強い
3	病院が多く、買い物でも何でもそろろう。 便利。
4	出雲科学館や博物館がある
5	何でもある まち。

【卒業後の進路について】

1	就職したい企業 が、県外にある。
2	地域は考えていない。 就職したい企業 があるところで就職する。
3	地元愛 が強い。地元で公務員を目指す。
4	家族や友達が多い 地元で就職したい。
5	子どもの頃から 、出雲で就職すると決めている。
6	魅力ある就職先 があれば、出雲で就職してもよい。

【地域との関わり】

1	NPO 法人を立ち上げるなどして、 地域の人が必要としていること をしたい。
2	地域の人と一緒に なって楽しいことをやっていきたい。
3	溝掃除やごみ拾いなどのイベントは、小さいころからよく参加しており、 大人に良くしてもらった。

【出雲がより魅力的なまちになるために必要なこと】

1	イベントが少ない。イベントが多いと良い。
2	市内の移動手段がない。 公共交通 （バスなど）の整備
3	自転車や徒歩で行ける範囲 にいろいろなものがあると良い。
4	子育てや介護をしながら 働き続けられる環境
5	域外から来た人が 地域コミュニティに溶け込めるようなサポート
6	これまでどおりの出雲 を大切にしたい。
7	温かみ のある出雲

(5)総合振興計画策定に向けた提案（第1回総合計画審議会の傍聴レポートから抜粋）

1	目標設定の理由を広く一般の市民に説明・共有 することで、より出雲にとってふさわしい目標になる。
2	目標値の設定に関して、 高すぎる目標ではなく、適正な設定 をすべき。
3	基本方策や戦略プロジェクトなど、 大きい括りで目標や方針が定められているのは、目指す方向が市民にも分かりやすく伝わりやすい
4	専門的に学んでいる学生だけでなく、その他 学生や若者の意見を広く聴取 して計画に反映させてほしい。
5	もっと 幅広い市民の声が反映されるような仕組み があれば良い
6	街の実状に詳しい地元企業の方も（委員に）入れれば、 より市民に近い目線からの意見 がもらえるのではないかと。
7	委員の皆様が感じることを、 市民を代表する声 として市に届け、総合計画に反映させていただくことを期待したい。
8	市民に興味・関心を持ってもらうため、 総合振興計画の広報を強化 すべき。
9	市長が“ ゼロカーボンシティ ”を宣言したため、この視点も重視して計画を策定してほしい。また、第2期出雲市多文化共生推進プランにもあるように SDGsの視点も重視 してほしい。
10	SDGsの視点 を取り入れて欲しい。
11	国籍だけでなくあらゆる属性に関わらず 様々な人が集まる都市 になってほしい。
12	国籍、性別の違いだけでなく、その他の あらゆる立場の人にとって理想的なまち になることで、多様な価値観から多様なアイデア、文化が生まれ、出雲市の発展につながる。

13	これからの時代を見据えて策定する計画だからこそ、これからの時代を担う 若者への支援 について触れて欲しい。
14	関係人口という視点 を取り入れるべき。
15	働き手となる 20 代～5,60 代に年代を絞り、 関係人口目標を数値化 し、戦略のひとつに組み込むこともできるのではないかな。
16	IT 機器に不慣れな人を含めて、市全体で デジタル化を推進していく方策や姿勢 が盛り込まれると良い。
17	単にデジタル化して終了ではなく、出雲市の構造を DX で 誰もが社会的な恩恵を享受 し得るものに変革する必要がある。
18	市民と協働により取り組む視点 を取り入れて欲しい。
19	コロナ禍で方向転換した企業や自治体は多くあり、そういった 流れに取り残されることへの危機感 は持つべき。
20	ウイズコロナ時代にも 臨機応変に対応できるような取組 が今後重要になってくる。
21	外国人住民が多い出雲 だからこそ、もっと多くの情報や場面で外国語表記や「 やさしい日本語 」が広がると良い。
22	市民から 地区ごとに危険地帯を聴取 するなど、その土地のニーズから 交通安全対策 が講じられると良い。
23	市民は、全体像よりも 身近な問題に関心がある と思う。そういった 意見を聞いてもらえる場の提供 があってもいいのではないかな。
24	コミセンの果たす役割は大きく、出雲は コミセンの活用 がこれからできると思っている。高齢化も顕著で、病院へのアクセスが難しい 郊外に、たくさんのリソースがつながるネットワーク が必要。
25	出雲も 10 年後には限界集落となる街がほとんどだということに驚いた。 郊外の人口減少対策は重要な視点 である。
26	地元産業を強化 することで、地域内の資金循環を高め、 若者の人口流出や後継者不足を解消 することが重要。
27	姉妹都市等を足掛かり に、大都市圏で出雲物産展等の大規模イベントを行って出雲市・島根県より 遠く離れた地の人々に広く周知 してもらおうという方法もブランド定着の基礎としては有効なのではないかな。
28	がん検診の受診数 が非常に少ないことについて、会社単位の 集団検診 が最も効率良く、かつ沢山の人に がん検診や健康診断 を受けてもらえる方法。